

海を通したESD～海洋教育の推進～

大牟田市教育委員会では、平成28年度、東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センターと協定を結び、みなと小学校、天領小学校、天の原小学校の3校を海洋教育推進モデル校として、様々な取組をすすめています。今号では、これまでの3校の実践を紹介します。

★海洋教育でめざす人材

持続可能な海洋の開発と利用を可能とする知識、技能、思考力、判断力、表現力を有する人材の育成を目指します。

★3校の共通実践

子ども海洋フォーラムin九州
3校合同交流会
有明海クルージング など



【みなと小学校 3年生の実践】

ネイチャーガイド・オオムタ「自然案内人」柿川和機さんや地域の見守り隊の方々と一緒に荒尾海水浴場で、干潟に入り、海の生物を採集し、観察する学習を行いました。様々な海の生き物たちの元気な姿に子どもたちも新たな発見をしていました。



【天領小学校 3年生の実践】

体育館で「海まつり」を開きました。青いビニールでつくった海への入り口をくぐって会場に入ると、そこには、『海について調べ・まとめた研究物』『折り紙の先生に教えてもらい自分たちで折った作品』『干潟で集めた貝殻』などが展示してありました。そして、みなと小学校の3年生、保護者・地域の方々、ゲストティーチャーの方々を招きゲームで交流したり、海の歌を歌ったり、折り紙をその場で折りプレゼントしたり海に関する劇をしたりして、楽しい時間を過ごしました。



【天の原小学校 5年生の実践】

校区を流れ、有明海に注ぐ野間川の生物調査をしたり、透明度調査をしたり、水質調査をしたりすることを通して、メダカがいないこと、下流に行くほど水質が悪くなっていることを知り、どうして下流の方が汚れているのかなど疑問をもち、川と海の環境保全について考えました。



大牟田市立駿馬北小学校の実践

自ら学び、自ら考え、郷土を愛するはやめ北っ子

6年生の子どもたちは、5年生までに三池炭鉱関連施設の概要について学習してきたことや、宮原坑のよさをパネルにまとめたり、月1回のボランティアガイドに取り組んだりしてきました。その取組の中で子どもたちは、宮原坑を訪れる方々へ「宮原坑のよさをもっとしっかり伝える」という目的意識をもち、「明治日本の産業革命遺産」としての価値をもっと多く付け加えていこうと考えました。そしてそのことをボランティアガイドに生かしていきました。このような活動を通して、宮原坑の価値理解や郷土への愛着を深めることができました。また、7月10日の「世界文化遺産登録2周年&市制100周年記念集会」では、手直したガイドパネルを使って甲斐副市長へボランティアガイドを行うことができました。



大牟田市立甘木中学校の実践

2045(みらい)につなげよう!

2年生では、職場体験学習を行いました。事前に生徒アンケートを取り、生徒の興味・関心を調査し、調査結果をもとに、生徒の第1希望の職種で体験できるように、必要数の事業所に体験学習を依頼しました。

この体験を通して、それぞれが職業の価値に気づき、自分の将来の進路に対する夢をふくらませ、意欲を高めることができました。

活動後の生徒の感想をいくつか紹介します。
「職場体験をする前は、働くことや仕事にあまり興味がなく、する意味があるのかなと思っていただけ職場体験をした後は、働くことや仕事は大変で、職場体験をやってよかったと思いました。」
「ぼくは職場体験をする前は働くこと、仕事については、ただお金が入ればいいと思っていただけ、職場体験後は、人のため、環境のために働いたり仕事したりしていることがわかりました。」

